

今週（4月6日から4月10日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

今週は6日にTB3M発行超過、8日に30Y発行、10日に6M物発行超過・5Y発行など、資金需給的には不足要因が多かった一方で、米ドル資金供給用担保国債供給オペなどの落ちが多かったこともあり、日銀当座預金残高は390兆円台半ばから後半で推移した。

6日は先週の流れを引き継いで▲0.025～▲0.01%が中心の出合いと高水準であったものの、積極的な調達を手控える先も一部では見られたため、レートは日を追うごとに弱含みの展開となった。7日以降は地銀・証券業態の出合いは▲0.07～▲0.015%と幅広いレンジで、都銀・信託業態の出合いは▲0.087～▲0.07%と低い水準であった。10日は3日積みとなったことやGCレポレートが上昇したこともあって、出合いの中心は▲0.05～▲0.01%と、全般的に上昇した。ターム物に関しては、1～2Wのショートターム物で▲0.02～▲0.001%の散発的な出合いが見られた程度であった。

固定金利方式による共通担保資金供給オペは13日に2W物・20,000億円がオファーされ、14,570億円（期落ち額14,270億円）と札割れとなった。その他、新型コロナ企業金融支援オペが10日に3M物でオファーされ、5,628億円の貸付が行われた。

●レポ市場

今週のO/N GCは、▲0.400～▲0.080%のレンジでの取引となった。週前半は業者の売りが薄く、また投資家の資金調達意欲も限定的で、締まった水準での引き合いとなった。週後半に5Yや短国3M・6Mの発行が連続したことで、レートは上昇基調となった。

SCは個別銘柄では2y403～410、5y139～142、10y336～357、20y164～171、30y59～65、40y11～12など、カレント銘柄周辺や、チーベスト周りの銘柄にビッドが多く見られた。

●短国市場

今週の短国市場は、閑散地合いの中、堅調に推移した。週を通して、担保需要からか散発的な買いが入っており、3M物が▲0.170～▲0.150%、6M物が▲0.190%で出合う展開となった。

7日に実施された短国買入オペは、前回と同額の2,500億円でオファーされ、平均落札利回較差+0.003%、按分落札利回較差▲0.004%と、無難な結果となった。

9日に実施された6M物の入札は、WI取引において▲0.130～▲0.125%で出合う中、平均落札利回▲0.1458%、按分落札利回▲0.1419%と、しっかりした結果となった。結果発表後のセカンダリーマーケットにおいては、▲0.190%出合いと強含みで推移した。

10日に実施された3M物の入札は、WI取引において▲0.150～▲0.140%で出合う中、平均落札利回▲0.1431%、按分落札利回▲0.1202%と、軟調な結果となった。結果発表後のセカンダリーマーケットにおいては、▲0.140%出合いと落ち着いた推移となった。

●CP市場

CP市場は、幅広い業態において数多くの発行案件が見られた。週間償還総額2,000億円程度に対して、発行総額は5,500億円程度と、月の初旬としては活況なマーケットとなった。先週に引き続き、緊急事態宣言に対応した予防的な調達とみられる発行が連日行われた。期間の長い銘柄に関しては買い意欲の著しい低下が見られた。加えて、発行体と投資家のレート目線が乖離していることもあって、発行取り止めや減額発行となるものも多く見られた。発行レートについては、銘柄によってバラつきがあるものの、依然として高水準で推移している。

●短期金融市場関連指標

	日経平均（円）	新発10年物 国債利回り（%）	為替 （ドル/円中心相場）	無担保コールO/N （加重平均・%）	東京レポレート（翌日物・ T+1スタート・%）	日銀当座預金残高 （億円）
4/6（月）	18,576.30	0.000	108.95	△ 0.022	△ 0.160	3,962,600
4/7（火）	18,950.18	0.001	108.86	△ 0.035	△ 0.253	3,966,300
4/8（水）	19,353.24	0.010	108.86	△ 0.046	△ 0.408	3,943,100
4/9（木）	19,345.77	0.009	108.96	△ 0.048	△ 0.200	3,971,800
4/10（金）	19,498.50	△ 0.005	108.60	△ 0.032	△ 0.101	3,969,200

来週（4月13日から4月17日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定			海外主要経済指標
4/13（月）	3月のマネースtock(日銀 8:50)				EURO、London祝日(Easter Monday)
4/14（火）		流動性供給 5,000億円 4/15発行			
4/15（水）	2月の石油等消費動態統計(経済産業省 13:30)				米ページブック 2月の米企業在庫 3月の米小売売上高 3月の米鉱工業生産・設備稼働率
4/16（木）		TB1Y 19,000億円 4/20発行	流動性供給 5,000億円 4/17発行	交付税借入 11,000億円 4/24借入	3月の米住宅着工件数
4/17（金）	2月の第3次産業活動指数(経済産業省 13:30)	TB3M 50,400億円 4/20発行			3月のユーロ圏消費者物価指数改定値

●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
4/13（月）	700	▲ 6,700	▲ 6,000	全店共通 CP買入 社債買入 ETF買入 国債補完 新型コロナ 国債売現先(米ドル)	▲ 14,300 ▲ 100 ▲ 100 300 5,600 400	14,600 1,500 900 5,600	8,800	2,800	TB3M発行▲50400償還43400
4/14（火）	0	2,000	2,000	国債売現先(米ドル)	400		400	2,400	源泉税揚げ
4/15（水）	0	78,000	78,000	国債売現先(米ドル)	6,100		6,100	84,100	年金定時払い 流動性供給▲5000 2Y償還11800 個人向け3Y・5Y・10Y▲発行6200 個人向け3Y・5Y・10Y償還600
4/16（木）	▲ 1,000	▲ 1,000	▲ 2,000	国債売現先(米ドル)	14,800		14,800	12,800	
4/17（金）	▲ 1,000	2,000	1,000	国債売現先(米ドル) CP買入 被災地支援	10,800 ▲ 1,300	 4,000	13,500	14,500	流動性供給▲6000 交付税借入▲10500期日10500
週 間 合 計	▲ 1,300	74,300	73,000	—	17,000	26,600	43,600	116,600	

4/13は日銀予想、4/14以降は当社予想

●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、15日に年金定時払い等の大幅な資金余剰要因がある。週半ばで積み期間が切り替わることもあって、レートが注目される。レボ市場は、足元GCは、積み期間が切り替わるタイミングではあるが、業者の資金調達に加えて、一部投資家の資金調達も入る可能性があり、▲0.150～▲0.070%のレンジでの推移を予想する。短国市場は、16日に1Y物、17日に3M物の入札が実施予定となっている。レート水準を含め、市場動向が注目される。CP市場は、14日にCP等買入れオペが4,000億円で実施予定となっている。市場残高が高水準で推移していることもあり、オフアー額の増額も考えられる。

主要なイベントとしては、海外では15日にページブックが予定されている。

◆本資料は信頼できるとされる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。

◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。

◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目録見書をよくお読みください。

セントラル短資株式会社 登録金融機関関東財務局長（登金）第526号 日本証券業協会加入